FPまつもと通信

ちょっと得する「お金」や「資産形成」の話題をお届けします。

ご挨拶

残暑お見舞い申し上げます。

夏休みはどのようにお過ごしですか?コロナ禍ですが人の移動はずいぶんと戻ってきたようですね。

コロナ禍で増えたもの一つにオンラインでの企業見学があります。場所の制約を受けずに様々な企業の工場や政府機関の見学ができます。

お子さまの夏休みの宿題が気になる人は利用しても良いかもしれないですね。中には大人も楽しめるものもあるようです。

興味がある人は「オンライン社会見学」などで 検索してみてください。



<u>今月号のちょっと気になるお金のコラム</u>

金融商品選びに関する意識が随分と変わってきているようです。リスクがあるが収益性が高い商品についてどう思いますか?

もはや昭和ではない

「もはや昭和ではない。昭和の時代、多く見られたサラリーマンの夫と専業主婦の妻と子供、または高齢の両親と同居している夫婦と子供という3世代同居は減少し、単独世帯が男女全年齢層で増加している。人生100年時代、結婚せずに独身でいる人、結婚後、離婚する人、離婚後、再婚する人、結婚(法律婚)という形を取らずに家族を持つ人、親と暮らす人、配偶者や親を看取った後ひとり暮らしをする人等、様々であり、一人ひとりの人生も長い歳月の中でさまざまな姿をたどっている。」

	1980年	2020年
婚姻数	73.6万	52.6万
離婚数	14.2万	19.3万
単身世帯	710万	2115万
50歳未婚率(男性)	2.6%	28.3%

上記は6月に公表された「令和4年 男女共同参画白書」からの抜粋です。

特に単身世帯数や未婚率の上昇を数字でみると改めて変化を実感します。

年金や医療などの社会保障制度ができたのは昭和30年代です。社会保障制度も家族の形の変化に合わせて徐々に変わっていくかもしれません。

私たち自身のライフスタイル、ライフプランに合わせてしっかりと準備をしておく必要がありますね。





F P 松本相談センター ファイナンシャルアドバイザー 媚山裕之

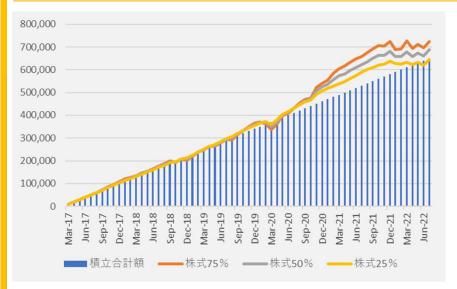
〒390-1702 長野県松本市梓川梓856-26 0263-76-1250 090-8741-7358 info@fp-matsumoto.com https://fp-matsumoto.com



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの"悲惨な老後の実態"を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。

国も勧める、"確定拠出年金"や"つみたてNISA"を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすくて、ためになる!」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド



N社バランスファンドのデータによる(コスト控除後)

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2022年5月末	630,000	712,471	672,546	631,586
2022年6月末	640,000	696,317	660,188	620,231
2022年7月末	650,000	725,242	687,322	645,916

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投 資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率 を多く、受取時期が近くなったら値 動きが小さい債券の比率を多めにす る。

大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式 への資産配分の増額、掛金の増額を 検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継 続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

	日経平	均	NYダ	ウ	ドル円
5月末	27,279.80	1.61%	32,990.12	0.04%	128.73
6月末	26,393.04	-3.25%	30,775.43	-6.71%	135.73
7月末	27,801.64	5.34%	32,845.13	6.73%	133.19

7月の株式市場は急反発

米国の消費者物価指数は約40年ぶりの高い伸びになり大幅利上げを予想する向きから7月14日には取引時間中、30143ドルまで下がりました。

しかしながら月の後半にかけてインフレ懸念の後退、 米国企業の良好な決算、FOMCによる利上げが前回 同様0.75%だったこと、先々の利上げペースの緩和 への言及、などから7月は大きく値上がりしました。 コロナからの回復期待で急回復した2020年11月以来の上昇率でした。

また為替相場も中旬には1ドル139円台まで円安になりましたが利上げペースが鈍化するとの見方から月末には133円台と大きく円高に振れました。

4-6月期の決算は比較的堅調だったものの景気やインフレについてはまだまだ楽観できるものではないようです。

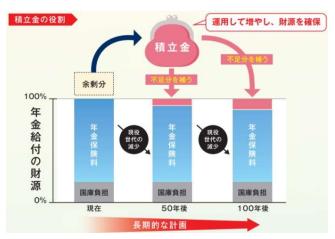
IMF (国際通貨基金) が7月に発表した世界経済の成長率見通しは前回(2022年4月)に引き続き引き下げとなりました。

ウクライナ情勢も含めしばらくは悪いニュースに反 応する傾向が強いと思いますが投資方針を守って継 続することが長期の資産形成では大切です。

当コラムは、商品選択の考え方、価格変動やニュースなどにどう対応するべきかについての一つの考え方をお伝えするもので、特定の運用商品、運営管理機関を推奨するものではありません。また、特定の商品の将来のパフォーマンスを約束するものでないことをご理解の上、ご覧ください。記載の情報(税制・社会保障制度・金融商品・マーケット・価格情報等)は発行日時点での情報に基づくもので将来は変更になることもあります。数値は公表されているデータに基づき当社にて計算・加工をしていますが、正確性を保証するものではありません。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

私たちが毎月支払っている年金保険料は現在の年金 受給者の給付に充てられています。少子高齢化が進 み現役世代の負担だけでは年金給付が不足すること を避けるため、給付に充てられていない余剰金は将 来に向けて運用されています。



https://www.gpif.go.jp/operation/21434948gpif/202 1 4Q 0701 jp.pdf (2021年度業務概況書より)

今月はこの年金積立金運用がどのようになっているのか確認します。

2021年度、10兆円余りの黒字

年金積立金管理運用独立行政法人(以下GPIF)は7月 に2021年度の年金積立金の運用状況を発表しました。

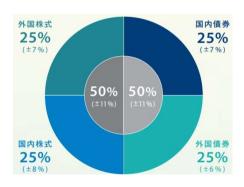
2021年度の収益率は、+5.42%、収益額は+10兆925 億円、運用資産額は196兆5926億円になりました。

下図は2001年以降の累積収益額の推移です。20年間で105兆円のプラスになっています。時として〇〇ショックというような大きなマイナスもありますが長い目で見ると資産が殖えていることがわかります。



年金積立金の運用は、長期的に実質年率1.7%で運用することを目標にしています。それに対してこの20年間の実績は3.78%と堅調に推移しているといえるでしょう。

この目標をなるく小さな値動きで達成するために下記 の配分を基本ポートフォリオと定めています。



下図は各資産の価格推移を表しています。2000年末の 為替相場は1ドル約110円だったので外貨資産は円安の 恩恵がありました。

株式市場は2000年のITバブル崩壊、2008年のリーマンショック、そして2020年のコロナショックと大きなショックがありましたが回復し、日本株は約2.5倍、外国株は約4.4倍になりました。



短期的な値動きに惑わされずに基本方針を維持して 継続することの大切さがここでもわかりますね。

GPIFのホームページには年金積立金の運用実績や運用についての考え方などが詳しく書かれています。 興味が有る方は一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

ちょっと気になるお金のコラム

まず最初に質問です。

①あなたのご家庭では、保有する金融商品を決める場合に、どのようなことに最も重点をおいて選んでいますか?

- 1. 利回りが良いから
- 2. 将来の値上がりが期待できるから
- 3. 元本が保証されているから
- 4. 取扱金融機関が信用できて安心だから
- 5. 商品内容が理解しやすいから
- 6. 現金に換えやすいから
- 7. 少額でも預け入れや引き出しが自由にできるから
- 8. その他

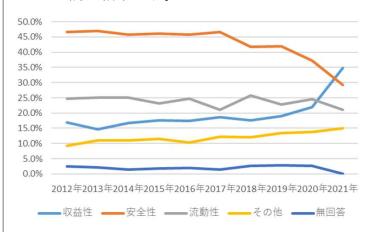
②あなたのご家庭では、元本割れを起こす可能性があるが、収益性の高いと見込まれる金融商品について、今後、どのくらい保有しようと考えていますか?

- 1. そうした商品についても、積極的に保有しようと思っている
- 2. そうした商品についても、一部は保有しよ うと思っている
- 3. そうした商品を保有しようとは全く思わない。

皆さんの答えはいかがでしたか?

これは金融広報中央委員会が行った「家計の金融行動に関する世論調査 [二人以上世帯調査]」の質問のなかで前の年に比べ大きく傾向が変わった質問をピックアップしたものです。

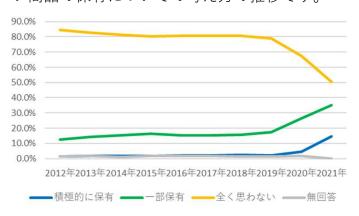
下図は①金融商品を選ぶときに重視する点についての調査結果です。



選択肢の、 $1 \cdot 2$: 収益性、 $3 \cdot 4$: 安全性、 $6 \cdot 7$: 流動性、 $5 \cdot 8$: その他、と分類

調査開始以来初めて収益性が安全性を上回りました。

下図は②元本割れの可能性があるが収益性の高い商品の保有についての考え方の推移です。



2021年には、「積極的に保有」と「一部保有」を合わせると50%になり「全く思わない」と答えた人と並びました。

2000万円問題やインフレなどを契機に資産形成の考え方が変わってきているようです。ただしやり方を間違えると逆効果になってしまいます。

自分の場合はどうすれば良いか気になる方はお 気軽にご連絡ください。